

# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

## Outcome report

計画名 Plan	アメリカ生態学会年次大会での口頭発表
氏名 Name	中村 直人
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科・森林科学専攻・博士課程後期2年
渡航国 Country	カナダ
渡航日程 Travel schedule	2022年 8月 12日 ~ 2022年 8月 21日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

### 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

Ecological Society of America (ESA; アメリカ生態学会) の年次大会では世界中の生態学者が一堂に会し、基調講演・口頭発表・ポスター発表が行われる。毎年各国から 4000 名以上が参加するこの学会は生態学の関連学会としては世界最大規模となる。中村（渡航者）は外来植物の侵略成功要因と微生物の関係についての研究を推進しており、これまでの研究で侵略的外来植物に付随する微生物群集が植物の侵略性に大きく寄与する可能性を世界に先駆けて発見した。この成果について、2022年8月にカナダ・モントリオールで開催される本学会に参加し、研究成果を世界に広く発信すること、また幅広い分野の専門家の方々との議論を行うことで結果の解釈をより洗練することが本渡航の目的である。

### 成果 Outcome

渡航者は本大会で“Microbial communities in the leaf, roots and rhizosphere of an invasive shrub, *Ardisia crenata*, differ between its native and invaded range”という題目の口頭発表を行った。質疑応答も行われ、自身の研究について議論を行うことができた。また、質疑応答の時間内だけでなく、発表を聞いた研究者と後に交流をする機会もあり、本渡航の目的であった研究結果の発信及び研究についてのフィードバックを得ることは十分に果たすことができた。

もちろん自身の発表だけでなく、他の研究者の口頭発表、ポスター発表、基調講演を聞くことができたことも大きな成果であった。関連学会では最大の規模を誇る ESA はポスター発表の数も多く、意欲的な実験手法や非常に新しいアプローチを学ぶことができた。年代の近い研究者もおおく、研究交流を通じてネットワークを広げると同時に、自身の研究へのモチベーションを本学会期間を通して大きく向上させることができたと考えている。

## **今後の展望** Prospects for the future

本学会開催期間中では口頭発表やポスター発表を通じて数々の斬新な研究アイデアや領域の新展開を知ることができた。特にポスター発表の期間には自身と分野の近い研究者と深く議論を交わすことができた。研究者ネットワークや共同研究の基盤を構築するために、本学会で知り合った方々とは今後も交流を続けて行きたいと考えている。

国際学会での発表は自身にとって初めての経験であり、当日は緊張の中プレゼンテーションを行ったが、練習の甲斐もあり予定どおり終えることができた。丁寧な発音や発表の分かりやすさ、声のトーンなど多くのことに気を配ったのも、国際学会であったからこそかもしれない。プレゼンテーションに関しては、他の発表者の技術の高さに驚かされることもあった。

本渡航では国際学会での発表で多くのものが得られることが分かったため、今後も積極的に参加していきたいと考えている。